

県立安芸津病院広報誌 監修 広報・患者サービス向上委員会
 発行 県立安芸津病院
 広島県東広島市安芸津町三津 4388
 Tel 0846-45-0055
四季だより
 夏号2018年7月(第71号) 病院理念 私たちは地域の皆様の健康と暮らしを支えるために力を尽くします

暑い夏がやってきました。暑さを表す言葉として、「夏日」(最高気温が25℃以上の日)、「真夏日」(最高気温が30℃以上の日)、「猛暑日」(最高気温が35℃以上の日)、「熱帯夜」(夜間の最低気温が25℃以上)などがあります。できれば猛暑日や熱帯夜は少なくあってほしいですね。さて、暑い日において気をつけなければならないのが「熱中症」です。屋内でも注意が必要ですが、とくに炎天下で仕事やスポーツをする人は、必ず水分・塩分をこまめに補給し、脱水症状を起こさないようにしましょう。



また、同様に気をつけなければいけないのが、いわゆる「冷房病」です。冷房による体の冷えや屋外に出たときの温度差は自律神経を狂わせ、体調不良につながります。冷房の中では長袖などで冷えを防いだり、冷たいものを多く取り過ぎないようにしましょう。今年の夏も体調に気をつけて、元気に乗り切ってください。

新任職員紹介



はじめまして、この4月から県立安芸津病院の薬剤科で働いております妹尾美加子(左)と平林慧(右)と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。当院の職員として働き始めて3か月が経ちました。初めは薬剤科の中での業務に精一杯でしたが、私たちも少しずつ病棟や外来へ顔を出す機会が増えてきて、患者さんや他の医療スタッフとのコミュニケーションに日々、楽しさや充実感を感じています。

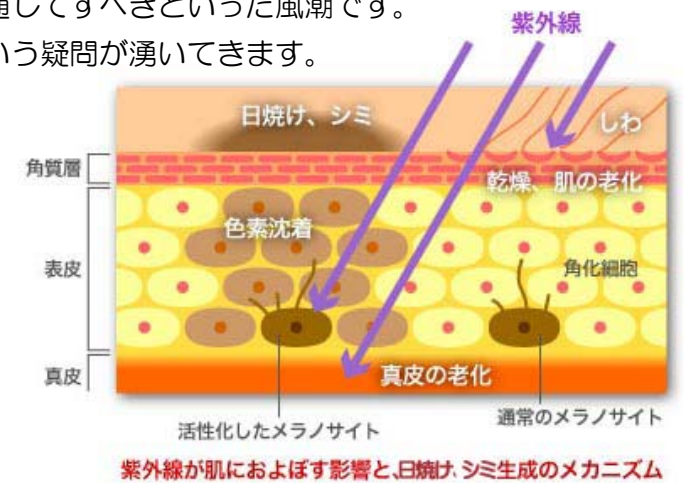
今は当院がより良い方向へなるよう、県立広島病院で得た経験と知識を活かし、日々、業務改善を行っていますが病院の規模も大きく違い試行錯誤する毎日です。やりたい事の1/10も出来ていませんが、今年度は薬剤科も人数が3人に増えたため、どんどん新たな事に挑戦していこうと思っております。新しい風を吹かしていけるよう努力いたす所存ですので、今後とも皆様のご支援とご指導をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



紫外線も捨てたもんじゃない

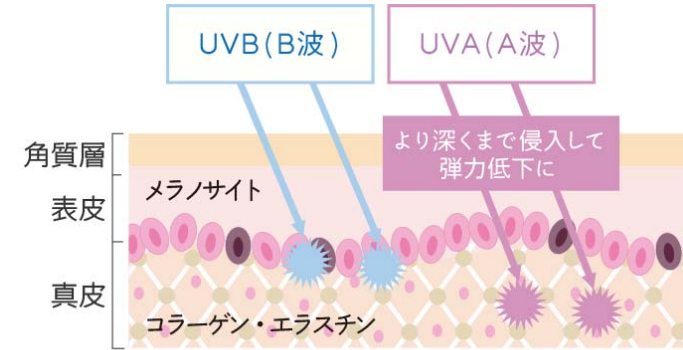
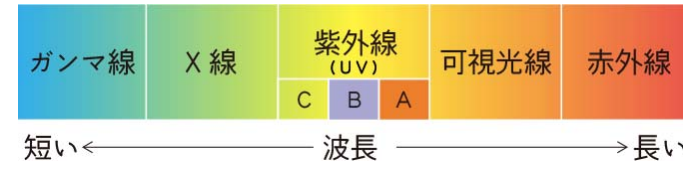
1年を通してUV対策(紫外線対策)が必要だといわれている今日この頃、私が学生のころには、日焼けした肌がファッション誌の主流でした。当時美白なんて言葉はなく・・・時代がわかりますね。それが今では、紫外線対策は老若男女問わず、年間通してすべきといった風潮です。そうすると「いったい紫外線の何が悪いのか?」という疑問が湧いてきます。

- ◆紫外線の悪いところ
- ・日焼けを引き起こす
- ・皮膚がんを誘発する
- ・肌の老化(シミやしわの原因)
- ・白内障の誘発



など紫外線の悪いところを書きましたが、実は紫外線のもつ「とある作用」は皮膚の免疫バランスが崩れることによって生じる皮膚科疾患の治療に対して非常に効果があります。

紫外線の「とある作用」というのは「免疫抑制効果」です。以前から「アトピー性皮膚炎」や「尋常性乾癬」(かんせん)「円形脱毛症」などに対して紫外線を照射すると皮膚の症状が改善するという事は知られていました。しかし、紫外線には日焼けしたり、がんを誘発したりという悪影響を最小限に減らし、なおかつ高い治療効果を追求して開発されたのが「ナローバンドUVB照射装置」です。ちょっと難しい話になりますがUVBという光は、紫外線の中の一部の特定の領域波長を示しており、ある程度「幅の広い(ブロードバンド)」波長を有しています。その中でも特に有害な成分をカットし、治療効果の高い【幅の狭い(ナローバンド)】波長の光のみを抜き出して照射できる機械が「ナローバンドUVB照射装置」でこの装置を使った治療を紫外線治療といいます。



実は当院にもこのナローバンドUVB照射装置があるんですね。実際に当院でもアトピー性皮膚炎の患者様や円形脱毛症の患者様の治療効果を実感しております。紫外線治療は皮膚の中の炎症を起こす細胞の動きを抑えることで多くの皮膚の病気に効果を発揮します。アトピー性皮膚炎や手湿疹、痒疹の痒みから尋常性乾癬のガサガサや赤み、円形脱毛症や白斑まで幅広く治療として使うことができ、大きな副作用もないのがナローバンドUVB照射装置です。これらの病気でお困りの方一度当院皮膚科にご相談ください。お待ちしております。



ナローバンドUVB照射装置